



Title	<紹介>伊井春樹編『源氏物語注釈書・享受史事典』
Author(s)	藤井, 由紀子
Citation	語文. 2002, 79, p. 65-65
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69015
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

紹介

伊井春樹編『源氏物語 注釈書・享受史事典』

藤井由紀子

『源氏物語』の注釈史は長い。世尊寺伊行『源氏釈』を嚆矢とするそれは、以来、時代の『源氏物語』に対する関心を反映しつつ、現代に至るまで綿々と書き続けてきた。一部の著名な注釈書を除けば、それらすべてを通覧することは不可能と言つてよく、全体像を把握することすらおぼつかないというのが現状であった。

氏は、これまでも、『源氏物語注釈史の研究』（昭和五十五年・桜楓社）を代表とする一連の研究において、これらの注釈書を精力的に調査・紹介してきた。本書は、その集大成とも言うべきものである。

収録された注釈書は、五百を越える。そのすべてに、「書名」「著者」「書誌」「成立」「内容」の項目を付し、その概略を知ることができる。注釈書によつては、「内容」において、本文の一部翻刻もなされており、これまで容易に窺うことのできなかつたその内容を把握することが可能となつた。研究の進んでいる注釈書についても、「伝本」「本文」「文献」の項目によつて、研究史の概略を摑むことができ、至便である。

本書の基本方針は、「源氏物語の影響によつて派生した作品は対象外と」するものであるが、氏自身「峻別するには困難な点もある」と断つてゐる通り、狭義の注釈書の範囲から逸脱する作品も多く紹介されている。『詠源氏物語巻々歌』・『紫式部前和歌』のような

卷名歌、『絵本源氏物語』・『おさな源氏』等の絵入り梗概書、『雲隠

六帖』に代表される『源氏物語』に材を採つた創作など、『源氏物語』に対する興味と関心の種々相への広がりを垣間見ることができ、拾い読みだけでも新たな発見がある。

そのような幅広い『源氏物語』の享受の様相を、年代順に列挙したのが、本書のもう一つの柱として収載されている「源氏物語享受史」である。寛弘五年（1008）の『紫式部日記』「御前には、御冊子つくりいとなませたまふ」の記事から、慶應四年（明治元年・1868）『学海日録』「ある書屋より源氏物語評説ひやくせきてふ書をかりて読む」まで、漢文日記や注釈書の識語などを中心として、『源氏物語』の書写・校合・講釈等に関わる記事が網羅的に收められている。これまで、このようない形で『源氏物語』の享受史を纏めたものではなく、まさに、氏の、時代・ジャンルを越えた博覧強記とも言うべき知識の蓄積によつてしか為され得なかつた試みであると言えよう。

本書によつて、『源氏物語』の注釈史・享受史研究には、大きな見取りと指針が示された。後進の研究者にとって、必携の書となることであろう。「事典」ゆえに「編」と銘打つてはあるものの、そのすべてを自身で執筆された氏の御尽力に敬意を表したい。

（東京堂出版、二〇〇一年九月刊、八一六頁、一八、〇〇〇円）

——本学大学院博士後期課程——